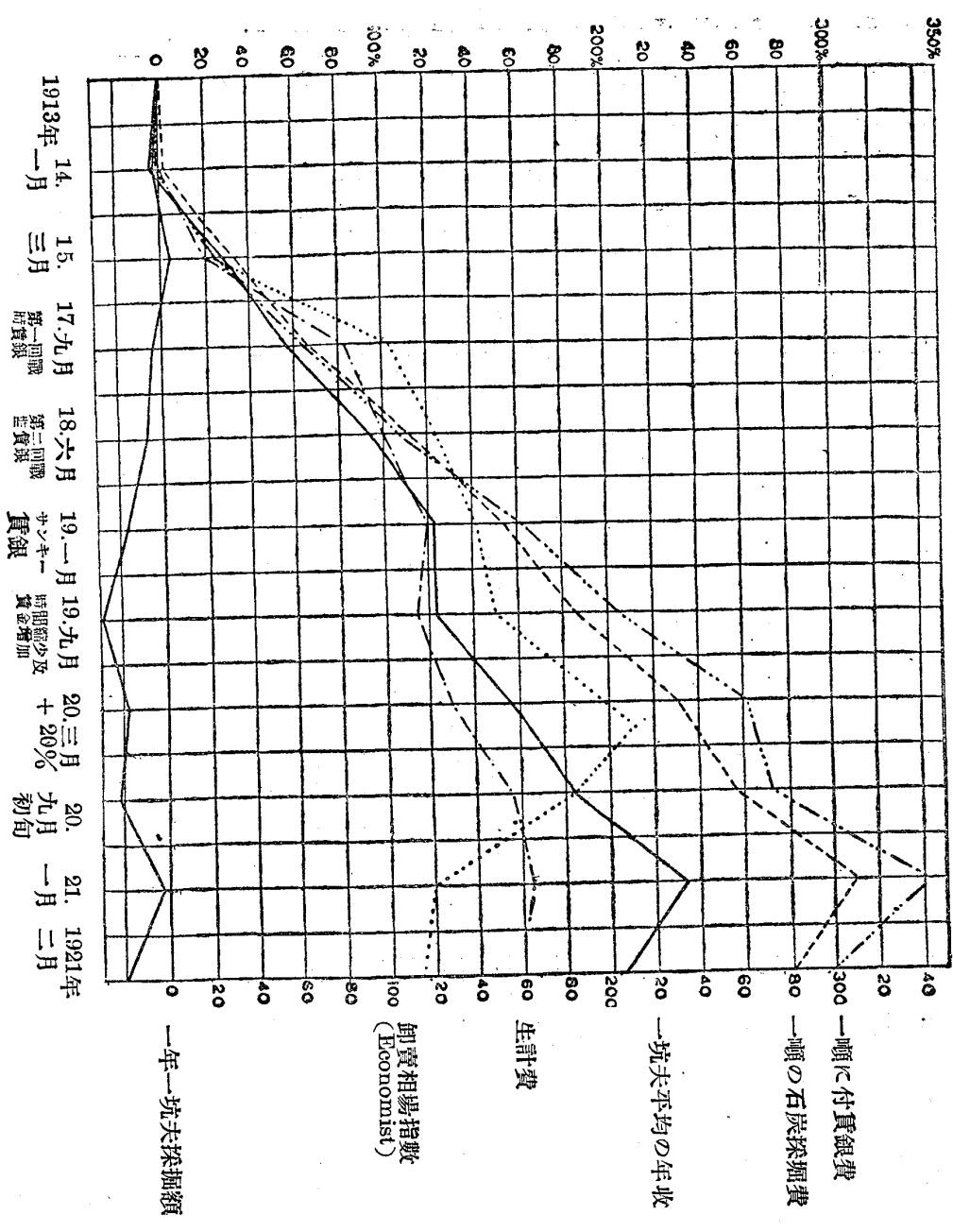


歐米鐵鋼價格論(承前)

小島精一

一九一三年以後各年の増加率。



(註) The Mining Association 作成,
The Times, Trade Supplement mar.

5. 1921 其他に掲載。

本表によりて特に注目すべきは、出炭
能率の減退其一なり、坑夫收入と生計
費との關係其二なり、出來噸當リ實銀
費及總山元原價の昂騰三なり。
之を一般卸賣物價に比して山元原價
の著しき奔騰は能率減退と實銀上昇と
の二重の原因によること明瞭なるべ
し。

第三章 米國鐵價市況

第一節 鐵鋼市況の趨勢

一九〇二年以降ピツツバーグに於ける主要鐵鋼の市價次の如し。

年	三月	同	三月	同	三月	同	三月	同	三月	同	三月	同	三月	同	三月	同				
一九〇一年	一九〇二年	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年	一九〇七年	一九〇八年	一九〇九年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	同
一五、七	二〇、二	一八、二	一八、九	一六、四	一九、五	二二、八	一七、一	一七、四	一七、二	一五、八	一五、七	一七、一	一四、九	一五、七	二二、九	四三、六	三二、二	三一、一	四〇、〇	四三、四
二四、一	三〇、三	二七、九	二七、九	二四、七	二七、四	二九、二	二六、三	二四、六	二五、三	二二、四	二二、五	二五、八	一九、二	二二、四	四四、〇	七〇、八	四三、五	四〇、五	四八、〇	六〇、〇
三二、九	三七、四	三四、九	三四、九	三五、四	三五、四	三五、八	三八、二	二九、六	三二、〇	二九、三	二八、二	三四、七	二五、八	二八、九	五九、七	八一、三	六一、五	五五、九	二、七五	三、六三
三四、九	三五、八	三五、八	三五、八	三五、六	三五、八	三八、一	三六、八	三一、七	三二、六	二九、三	二九、三	三三、六	二五、五	二九、八	七九、二	一三一、八	六七、二	六〇、九	二、七二	三、六三
二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	五五、〇	五五、〇	五五、〇	四七、五	四五、〇	四七、五
五〇、四	四四、六	四四、一	四四、一	三九、四	四一、六	四五、〇	四四、四	四〇、七	四〇、一	三七、二	三四、七	三八、三	三四、九	三六、七	五六、六	七九、三	七八、四	七六、三	四、五〇	四、〇〇
八九、六	八八、〇	八九、八	八九、八	七八、四	八九、六	八八、〇	八二、九	七八、四	八〇、六	七一、五	七六、二	七九、五	七三、七	七七、三	一一八、八	二〇一、六	一六四、六	一五八、六	七、〇〇	七、〇〇

ベセマー銑 鋼片 鋼棒 板 鋼軌條 線釘 鉸力板

同	五月	四四、〇	六〇、〇	三、六三	三、七五	五五、〇	四、〇〇	七、〇〇
同	七月	四七、二	六二、五	三、五〇	三、三八	五五、〇	四、〇〇	七、五〇
同	九月	五〇、五	五八、七	三、二五	三、二五	五五、〇	四、二五	九、〇〇
同	十一月	四一、一	四九、七	二、八七	二、八一	五五、〇	四、〇五	七、五〇

(註) * 一封度に付、仙、
 △ 一〇〇封度一箱に付、弗、
 △△ 一箱に付、弗、

次に大戦前後の市況を概説すへし。

(一) 一九〇七年の恐慌後一九一三年迄

一九〇七年十月の恐慌は鐵鋼生産量を激減し鐵價下落の勢は延て一九一二年に及へり。一九一二年に稍反撥氣勢を示したるか一九一三年秋冬の頃再び銑鐵市況に現はれたる崩落の勢は一般鐵價に波及しバルカン戦争の惹起せる財政難、アンダーウード低率關稅法の通過、メキシコ紛争は見送りの警戒を生し通貨法の紛議と相俟ちて市況を軟弱ならしめたり。然れ共低率關稅法の影響は尙一九一三年には著しからず當時同國着獨乙ベセマー條鋼は内地市價より五弗乃至六弗、又鋼片は二弗乃至三弗低廉なりしかと其輸入は尙ほ大ならざりき。

(二) 一九一四年(不況)

開戦第一年たる一九一四年は鐵鋼市場稀有の不振を示したり。蓋し關稅低減の影響は既に年初に表はれ線釘、銑鋼片等頻りに輸入を促進せり、加ふるに議會の紛争、メキシコとの外交問題は惡材料を齎し鐵道材料購入も亦不活潑なりしを以て同業者は一樣に不成績を免れざりき、ユーエス會社も僅に優先配當に充つへき利益を收めたるに止り、若し此配當を完済せは一七百萬弗の缺損を見たり。(一九一三年には三千百萬弗の剩餘あり)從て銑鐵は殆ど投賣せられたり。歐洲大戦の勃發したるは此時なり。即ち先づ七月二十七日ウインナ取引所の閉鎖に次きてブラッセル、巴里、伯林之に倣ひ三十一日は倫敦取引所に及び紐育も亦之と略同時に閉鎖するに到れり。鐵鋼業者は大戦による需要の喚發を

34

期待しつゝありたるか年末に到るも尙ほ海外の注文來らす不活潑裡に一九一五年を迎へたり。一九一四年の製銑高は二三三百萬噸、之れを前年の三一百万噸に比すれば其の不振なりしを察すべし。

(三) 一九一五年(回復)

年初既に回復の徴あり、前年末には二五%乃至三〇%の作業率に止りたる製鋼會社は本年の月末には既に五五%の作業率に復したり。然れ共銑鐵市況は依然として昂進を示さず精製品獨り三弗乃至五弗の上騰を告げたり。五月に入るや歐洲軍需品の注文あり各工場は頻りに戰時設備の擴張を行ひ急遽その需要に應ずるを努めたり、銑鐵生産率は年初平時の六〇%なりしか(年一九百萬噸)四月には二五百萬噸に復し年末には三八百萬噸に達せり。價格上昇は後年の暴騰を見れば尙ほ微溫的なりと雖も久しく不況に沈溺したる當業者を救ひ各會社をして一齊に好成績を收めしめたり。是を以て失業者は急に其影をひそめ企業者は注文の吸収を苦まずして擴張にのみ腐心したり。

(四) 一九一六年(盛況)

全年を通して各工場は全能率を發揮し前年一三四百萬弗なりし輸出額は二二六萬弗を超ゆるに到れり。之を數量に見るも三五百萬噸より六百萬噸に上れり。

殊に砲彈用大丸鋼は驚くべき巨額に達し軌條工場より之に轉換する者相次きたり、鍛鍊工場も亦砲彈鍛鍊にて巨利を收め船板は從來になき高値を示せり。シカゴ工場にても輸出品を製造するに到れるは以て其盛況を想見すべし。内外の需要急に膨脹したるを以て鐵道及船腹は不足を告げ滯貨次第に山積し鐵道は屢々輸送拒絶をなすに到れり。市價收益の昂騰に伴ひ勞銀も亦上昇せり。

(五) 一九一七年(轉換期)

前年の盛況を受け上半期は實に未曾有の上昇を示せり(次表参照)茲に注目すべきは斯る變態的需

給の調節か法律の發布を見ずして圓滿に實行せられたる事なり、即ち四月七日米國宣戰するや舉國一致政府を擁護するにつとめ政府か其軍需品の購買に適當の援助を得へきを要望するや生産者は直に之を賛し宣戰の後數日ならずして海軍及造船所々要品はピッツバルク渡左の價格にて供給をなすへきを聲明せり。

板	二、九〇	(市價)	六、〇〇
形	二、五〇	(同)	四、〇〇
及			
棒			

七月十二日大統領は更に一般市民の購買にも同一價格の適用せられんことを要望したるか此日鐵鋼協會の任命したる特別委員は船舶局長、國防會議特別委員會長等と會合し會後國防會議長 Behr 氏は次の如き宣言をなしたり。

「生産者は全力を擧げて生産増進に努むべく鐵鋼價格は聯邦商業委員の調査後に決定すへしと雖も一方には生産者の相當の利益を確保し同時に重要品の需要を満足せしむるに努むへし」と。

この結果戰時産業局は生産者と協議し九月二十四日大統領ウイルソン氏は左の最高價格を宣し遂に價格管理をなすに到れり。

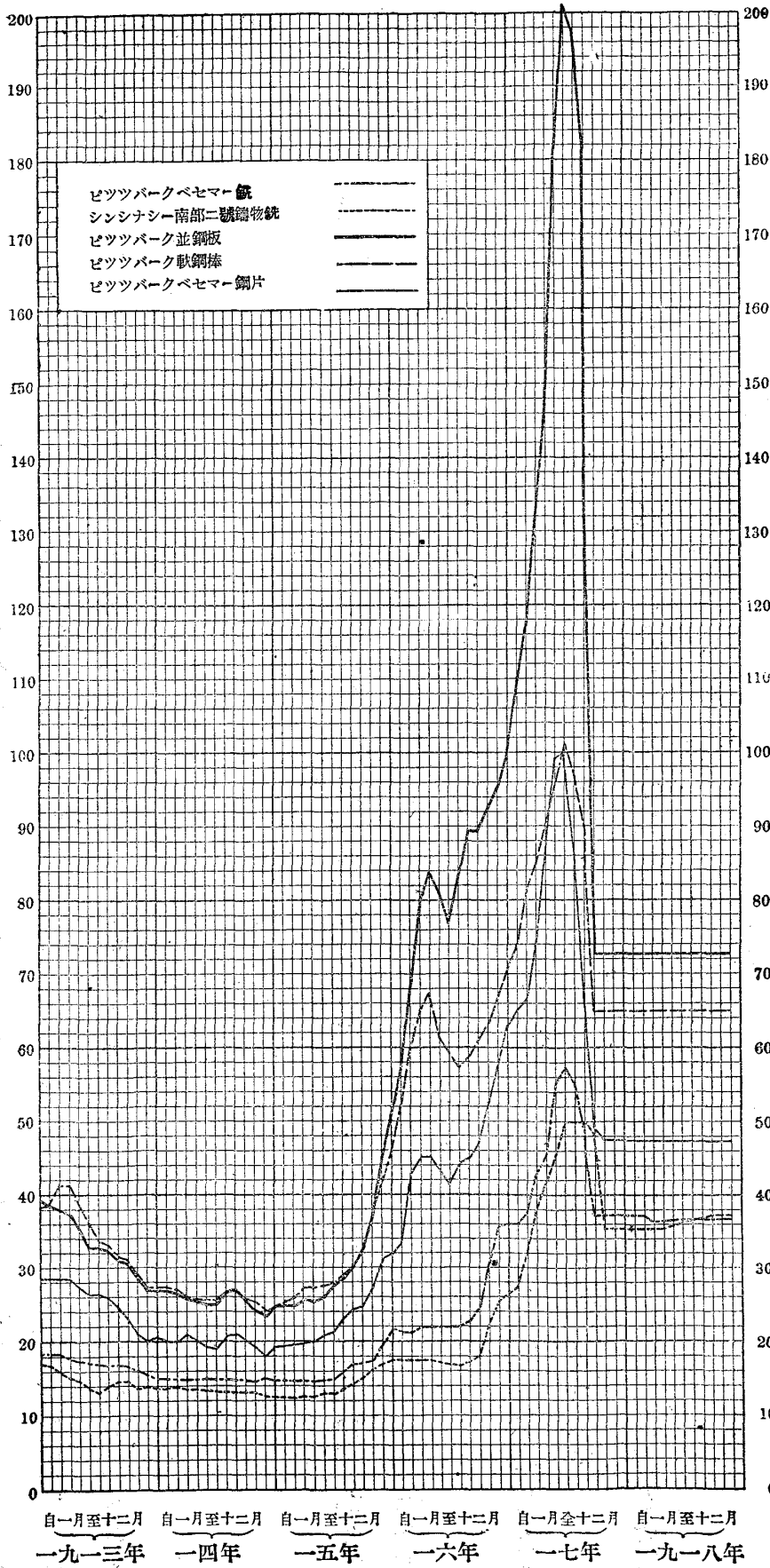
メサビ非ベセマー鐵鑛	五、〇五
コンネルスビルフ骸炭	六、〇〇
銑	三三、〇〇
鐵	二、九〇
鋼	二、九〇
棒	三、〇〇
建築用シエーパス	三、二五
プレ	三、二五
ト	
	北部、南部、共二號鑄物用及鹽基性、高爐渡
	ピッツバーク渡

當時銑鐵市價は五五弗なりしを以て實に二二弗の値下げなり、鐵鋼協會は鐵鋼品常設委員を任命し更に特別委員を設けて其細目を規律せしめたり。超えて十一月二十八日ウイルソン氏はこの協定

價格を一九一八年三月末日迄存續せしむべきを公布したり。
 此年輸出量は六百二十三萬噸に達し會社は巨利を擧げたるか其大部分は戰時稅として政府の庫
 中に入りたり。

一九一三年一月一日より一九一八年十二月一日に至る主要生産品の價格高低表

(一長噸當、弗) (Iron Age, Jan. 2, 1919)



戦時中鐵鋼市價指數表 (前掲、パッケージトに依り) (一單位の價格)

品名	基本價格	指數												
		一九三三年七月		一九三四年		一九三五年		一九三六年		一九三七年		一九三七年		
		一月	四月	一月	四月	一月	四月	一月	四月	一月	七月	八月	九月	十月
鐵	メサビ、非ベセマー五・五%	長噸	三〇・八三	一〇〇	一〇三	九三	八五	二二	一五	一五	一五	一五	一五	一五
	メサビ、ベセマー五・五%	同	四〇・四七	一〇〇	一九三	九三	八六	一七	一四	一四	一四	一四	一四	一四
コークス	コンネルビルスファアーネス	短噸	二〇・六三	一〇〇	一一八	八八	七七	一七	一五	一五	一五	一五	一五	一五
銑	ベーシツク	長	一三・三三	一〇〇	一一〇	九七	一〇三	一四	一三	一三	一三	一三	一三	一三
鋼	層	同	一五・六八	一〇〇	一〇九	九五	一〇一	一五	一三	一三	一三	一三	一三	一三
鋼	へビメメルテイング	同	一九・五〇	一〇〇	一一九	九六	一〇一	一五	一四	一四	一四	一四	一四	一四
鋼	片鋼 鐵 平 爐	同	二七・九七	一〇〇	一一七	九三	一〇六	一七	一五	一五	一五	一五	一五	一五
鋼	鋼 建築 用 鋼 材	封 度	〇〇・四六	一〇〇	一一〇	九〇	一〇一	一四	一三	一三	一三	一三	一三	一三
鋼	板 タ ン ク	百 封 度	一・三六〇	一〇〇	一一三	九〇	一〇三	一四	一三	一三	一三	一三	一三	一三
レ	ル 鋼 鐵 標 準 平 爐	長 噸	三〇・四六	一〇〇	一一〇	九〇	一〇〇	一一	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
薄 鋼	板 亞鉛鍍金鋼ゲージ二十八番工場渡		二・九八	一〇〇	一一〇	九六	一〇九	一三	一二	一二	一二	一二	一二	一二
鉞	力 ドメスツクマーク 中一四吋長二〇吋	百 封 度 入 箱	三・四七	一〇〇	一一三	九六	一〇九	一四	一三	一三	一三	一三	一三	一三
ワイヤー	ロードベセマー	長 噸	二六・七五	一〇〇	一一八	九七	一〇八	一三	一二	一二	一二	一二	一二	一二

(六) 一九一八年

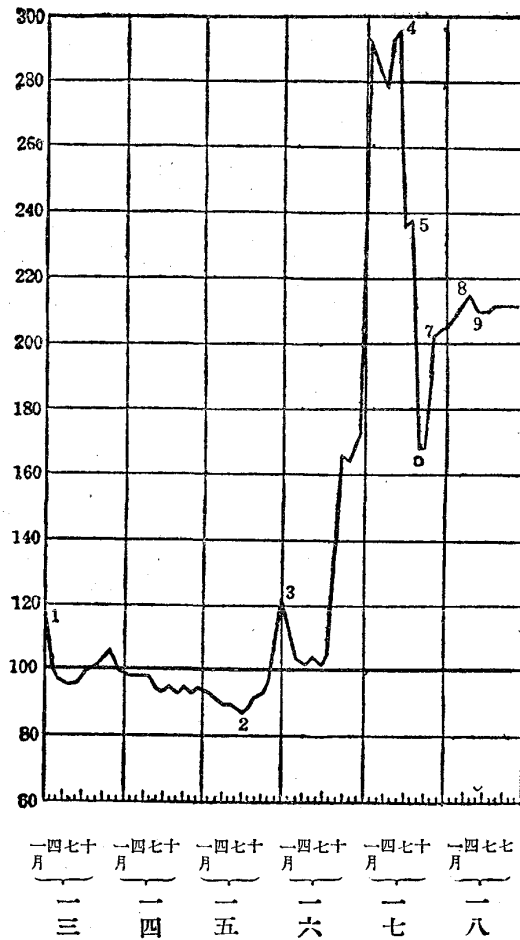
意外に迅速なりし平和克復は生産者を狼狽せしめたり。本年の早晩を對比すれば其市況の急變の著しきこと刮目せしむべきものあり。生産費は然も尙ほ不斷上昇を續けたるを以て生産者は需要の激減に伴ひ二重の困難を感じたり政府は失業者の窮狀の發生せんことを恐れ徐々に轉換を行ひ戰時産業局は十二月三十一日に管理を廢止し公開市場を回復せしめたり。

全年を通して運搬の停滯、石炭の不足は鐵鋼業者を苦しめたり戦争終熄二週間前に生産者は精鋼品四弗乃至六弗の値下を行ひ以て市況の惡化に具へたるか尙ほ需要を喚發せしむるに足らざりき。

(註) (1) 七月一日運賃値上げの爲め湖鐵四十五仙の値上げを行ふ。
 (2) 燃料價格管理は尙ほ續けたり。

別表は一九一三年乃至一九一八年瀝青炭即賣價格昂低割合表なり。併せ参照せらるへし。一九一三年七月より一四年六月に至る一ケ年を標準とす。平均即賣價格は戰前一・二七弗平均、取引價格は一・一七弗なり。

戰時即賣炭價指數表



(七) 一九一九年

年初三ヶ月間は前年の勢を受けて漸落し消費者は先安見越買控へをなし手持品の値下轉賣簇出し新規手合なかりき蓋し戰時注文の絶滅は一方に歐洲大陸の回復に伴ふ需要減退見込と相俟ちて前途を悲觀せしめたり操業休止漸く増加するに及び三月十九日商務院産業局は鐵鋼協會の任命したる生産委員と會合し遂に新協定價格を發表して徹底的値下を斷行し之によりて一方に需要を喚起して價格の激變を防ぎ且つ戰後顯著となれる生産過剩を一掃し之に伴ふ勞働不安を阻止せんと

(註)

- (一)(二) 一九一三年より一五年までの下落傾向は即賣及平均取引價格に共通なり。Stokeは一九一三年一月一・四七弗より一五年七月一・一四弗に下れり。
- (三) 一五年より一六年初にかけての冬期需要は殊に東部地方に強くして一・五四弗に引付けたり。
- (四) 一七年六月最高價格三・七七弗。
- (五) (四)一(五)の下落はPeabody價格による引下げの結果なり。
- (六) (五)一(六)は一九一六年八月二二日の大統領制定價格の結果なり。
- (七) 一九一七年一二月の賃銀値上の結果なり。
- (八) 燃料管理者の生産費調査の結果一般炭價値上げ承認せられ一八年五月には政府管理の最高價格に接近せり
- (九) 一八年五月二五日には全瀝青炭噸當一〇%の引下げあり。

せり。

産業局長レッドフィールド氏は初めより公言して曰く、本協定価格は別に何等の法規上の拘束を有せず、只た政府の需要品は本価格によりて購入すべく、之によりて一般市場に實行を促さんとするものなりと。然るに翌四月鐵道院は軌條購入に際しこの價格の適用を拒み、且つ本協定を以て Sherman Act に違背するものとせり。この態度は生産者側の反感を惹き本價格以下の注文には應ずるを肯せざりしを以て一般需要家も亦前途下落を斷念し形勢一變を促したり斯くて四、五月の交は尙ほ不振を續けたるか六月下旬、鐵鑄鐵の大口径注文現はれ鋼材市況も回復に向へり。八、九月に入り需要喚發したるに九月二十二日鋼鐵罷業起り高爐製鋼工場の閉鎖續出し十月末に到る迄常態に復せざり。十一月初に又復全國に亘る炭坑罷業あり後半年は屢々供給不足を告げ市價昂騰の素因をつくれり。ユーエス會社は終始價格維持の方針を嚴守したるか獨立會社殊に先物注文なき工場は頻りに市價昂騰を激成したり。かくて戰後第一年を盛況裡に送れり。

次に三月二十一日の協定價格表を示さん。
一九一九年三月二十一日に於ける新價格表 (Iron Age, Mar. 27, 1919)

鹽基性鐵	一九一八年十一月		新價格		十一月十一日より	
	弗	噸	弗	噸	弗	噸
四吋鋼片	四七、五〇	同	三〇、〇〇	二五、七五	七、二五	四、二五
二吋鋼片	五一、〇〇	同	四三、五〇	三八、五〇	九、〇〇	五、〇〇
板	五一、〇〇	同	四七、〇〇	四二、〇〇	九、〇〇	五、〇〇
鋼塊	五〇、〇〇	同	四六、〇〇	四一、〇〇	九、〇〇	五、〇〇
剪斷スケルプ	三、二五	百封度	三、〇〇	二、六五	一一、〇〇	正味噸
一般スケルプ	三、一五	同	二、九〇	二、五五	一一、〇〇	同

有溝スケルプ	二、九〇同	二、七〇	二、四五	九、〇〇同	五、〇〇同
基本マーチャント棒	二、九〇同	二、七〇	二、三五	一一、〇〇同	七、〇〇同
剪斷プレート	三、二五同	三、〇〇	二、六五	一二、〇〇同	七、〇〇同
基本建築材	三、〇〇同	二、八〇	二、四五	一一、〇〇同	七、〇〇同
線材	五七、〇〇長噸	五七、〇〇長噸	五二、〇〇長噸	五、〇〇長噸	五、〇〇長噸
線	三、二五百封度	三、二五	三、〇〇	五、〇〇正味噸	五、〇〇正味噸
釘	三、五〇同	三、五〇	三、二五	五、〇〇同	五、〇〇同
二十八番黒板	五、〇〇同	四、七〇	四、三五	一三、〇〇同	七、〇〇同
十番青色焼鈍	四、二五同	三、九〇	三、五五	一四、〇〇同	七、〇〇同
廿八番鍍金板	六、二五同	六、〇五	五、七〇	一一、〇〇同	七、〇〇同
鉄力板百斤箱	七、七五同	七、三五	七、〇〇	一五、〇〇同	七、〇〇同
管類	三、五〇同	—	—	—	七、〇〇同
基本フープス	三、五〇百封度	三、三〇	三、〇三	九、〇〇同	五、〇〇同
輕軌條	三、〇〇同	二、七〇	二、四五	一一、〇〇同	五、〇〇同
軌條、基本ベセマー	五五、〇〇長噸	五五、〇〇長噸	四五、〇〇長噸	一〇、〇〇長噸	一〇、〇〇長噸
軌條、基本平爐	五七、〇〇同	五七、〇〇同	四七、〇〇同	一〇、〇〇同	一〇、〇〇同
鐵鑛	變化なし	—	—	—	—

標準引渡場所及其他の場所との價格差異には變化なし價格は即刻有効。

當時 Iron Age 誌 (march 27. 1919) は指摘して曰く「從來生産者に對し徹底的値下を斷行すべき要求ありしか今次の訂正を見たる以上各種の事情を綜合して考ふるに當分は再び値下を要求することなからん。蓋し戰前十年間の平均市價に對し新協定價格は大約八割の高値なれ共一方賃銀は十二割乃至十八割昂騰したればなり云々」。

(八) 一九二〇年

同年を通してユー、エス會社は上掲協定價格を維持したり、然るに獨立會社殊に先物の註文少き諸

工場は需要の旺盛なるに乗じて頻りに高値の契約を結へり。九月に到る迄供給は需要を満すに足らず蓋し四月に交通業者の罷業あり殊にピッツバーク地方は滞貨甚たしく買急ける消費者は即時引渡に對しては特に割増を支拂ひたり。自動車製造業者は最も買進めり。然るに六月に入るや既に自動車の下落氣配あり。九月には遂に一般鋼材崩落の兆を見たり。此時に於て既に一般物價は下落しつゝありたるを以て大勢より見れば鐵價も亦之に従はざるを得ざりしなり。爾來漸落を續けて年末に入れり。

本年度を通して興味ある現象はユー、エス會社と獨立會社との價格の差異ありしことにして即ち別表に示すか如し。ユー、エス會社の價格方針に對しては賛否一様ならず、賛する者は市價安定の利益を擧げ、暴騰を抑止したるを承認せり、之に對し獨立會社の代表者は又自己の政策を辯護すらく「ユー、エス會社は我等の有せざる種々の利益を有せり、其所屬工場多數にして各地に散在し其の部門も亦多岐に亘るを以て運賃増加の影響を感ずること大ならず且つユー、エス會社は主要製品にては低廉を維持したれ共市場報告に掲載せられたる種々の貨物及び輸出貿易に於て巨大の利益を收めたり、云々」。

抑も本年度の昂騰を來したる主因は銑鐵及骸炭の價格上昇なるを以て左に其の原因を摘録すへし。

(1) 二月一日の賃銀値上 大戰後賃銀値上の頻繁なりしは後述すへきか如く本年に入り、物價既に下落せるに又一般的値上を餘儀なからしめたり。

(2) 鐵鑛値上 運賃及採鑛費上昇に伴ふ湖鑛の値上げなり。

(3) 骸炭値上 骸炭の價格管理は本年三月迄繼續せられたるか其廢止の時實際取引値段十弗前後なりしもの六月末より十月中旬に到る迄即時渡一七弗以下なるを得ざりき。

(4) 石炭罷業による燃料不足
(5) 鐵道運賃値上

獨立會社及エー、エス會社鋼材價格對比表

(一九一九年三月二十一日より二十年十二月十六日に至る) (單位長噸)

獨立會社

一九一九年

廿八番黑板

鋼板

ビームス

鋼棒

四	月	九七、四四	五九、三六	五四、八八	五二、六四
五	月	九七、四四	五九、三六	五四、八八	五二、六四
六	月	九七、四四	五九、三六	五四、八八	五二、六四
七	月	九七、四四	五九、三六	五四、八八	五二、六四
八	月	九七、四四	五九、三六	五四、八八	五二、六四
九	月	九七、四四	五六、六七	五四、八八	五二、六四
十	月	九七、四四	五八、四六	五四、八八	五三、五四
十	月	九七、四四	五九、三六	五四、八八	六〇、二六
十	月	九七、四四	五九、三六	五四、八八	六一、六〇
一	月	一〇〇、二四	六〇、九三	五五、三三	六二、二〇
二	月	一一二、〇〇	七八、四〇	六〇、四八	八一、三一
三	月	一二三、二〇	八一、三一	七〇、一一	八四、〇〇
四	月	一二三、二〇	八四、〇〇	七二、八〇	八一、三一
五	月	一二三、二〇	八四、〇〇	六九、四四	七八、四〇
六	月	一二三、〇〇	七九、五二	六九、四四	七八、四〇
七	月	一五一、二〇	七五、七一	六九、四四	七二、八〇
八	月	一六八、〇〇	七二、八〇	六九、四四	七二、八〇
九	月	一六五、二〇	七二、八〇	六九、四四	七二、八〇

鐵 鑛 石
 骸 炭 石
 灰 石

歐米鐵鋼價格論

六二〇 弗
 三、二〇
 〇、四四

八七七 弗
 三、九四
 〇、四〇

六九一 弗
 三、五〇
 〇、五〇

七一二 弗
 四、〇〇
 〇、五五

ベセマー銑噸當平均

鹽基性銑

鑄物用銑

一九〇二年乃至一九〇六年

一九一〇年

一九一五年—一六年頃

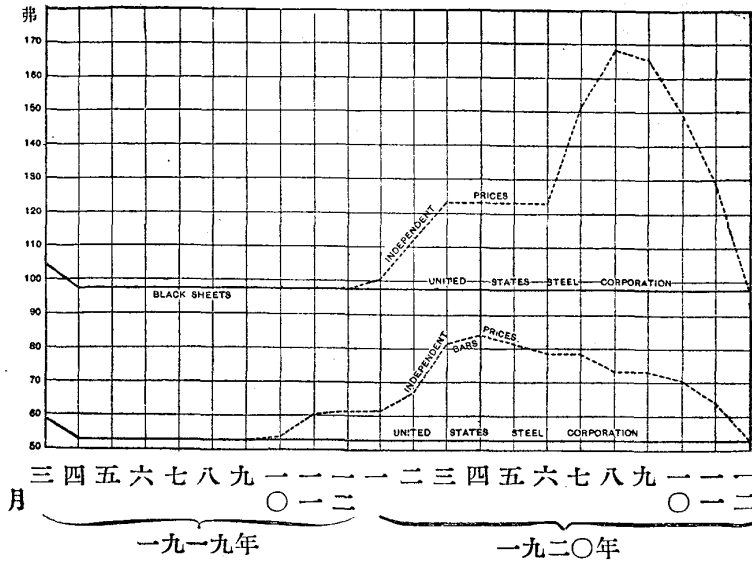
(一) 政府調査

(二) ヴアンハイゼー氏推算

(三) ホイトン氏推算

銑鐵一噸當工場原價

獨立會社及ユー、エス會社鋼材價格對比圖
 (一九一九年三月二十一日ヨリ二十年十二月十六日に至る)



十 十 十
 二 一
 月 月 月
 一九一九年 一九二〇年
 九七、四四 一二九、二四 一四九、八五

ユー、エス會社

黒板 九七、四四

鋼板 五九、三六

ビームス 五四、八八

鋼棒 五二、九四

六九、二二
 六二、九四
 五九、三六
 六八、三二
 六四、七四
 五四、八八
 七〇、一一
 六四、二八
 五二、六四

第二節 生産費の趨勢 併せてユー、エス會社の

收益金勘定對比

(一)英國關稅委員會の調査したる一九〇四年頃の生産費は已に之を述べたり。次に米國政府の調査及Whitton氏の推算を示さん。以て戰前同國製鐵業の基礎を窺はしむるに足るへし。

高爐賃銀	〇、七一	〇、四八	〇、五五
蒸氣代	〇、一〇	〇、三五	〇、三五
修繕費及雜費	〇、四八	〇、四五	〇、一五
爐壁償却高	〇、一八	〇、一八	〇、一八
臨時時費	〇、〇三	〇、〇五	〇、〇五
作業費合計	一一、三四	一二、〇二	一三、三五
		(排出瓦斯利益)	〇、五五
		(原料市價との差益)	二、四〇
			九、五四
			一〇、二〇

(原料自給會社)	
事務費	〇、三五
償却金	〇、三七
合計	一、二〇六

(註) (一)政府調査は The Report of the Commissioner of Corporations, 1910. により全國大小會社の總平均にして大會社は二一弗八八、小會社は一四弗〇一なり。

(二) Van Hise; Concentration and Control, 1912.

(三) Whitton: Iron & Coal Trade Review, July, 5, 1918. により之を地方別にすれば

	鹽基性銑	鑄物用銑
一	パツファロー	九、三四
二	ピツツパーク	九、七九
三	シカゴ	九、四九
		一〇、〇六
		一〇、二九
		一〇、二四

即ち大戰前十年間は生産費は増加せず寧ろ減少する傾向を有したり。

(二)次に最近の事情を知らんか爲め原料及勞銀の趨勢を檢するに一九一六年頃より驚くべき昂騰を來したるを見るへし。

イ 鐵 鑛 石

舊 鑛 帶

ベセマー用 非ベセマー用

一九一〇年	五、二〇 弗	四、二〇 弗	四、七五 弗
一三年	四、四〇	三、六〇	四、一五
一五年	三、七五	三、〇〇	三、四五
一六年	四、四五	三、七〇	四、二〇
二〇年十一月	七、四五	六、七〇	七、二〇

(註) エリー湖マック渡市價 (Iron Age誌)

メ サ ビ 鑛

ベセマー用 非ベセマー用

95仙+5仙	(ドック料)
80 +5	//
80 +5	//
70 +5	//
60 +5	//

昂騰の一因としては運賃の上昇は特に注目を要す、例へは鑛山より上湖港迄の鐵道運賃は一九一〇乃至一五年の交尙ほ四〇仙なりしに目下次の如し。

1 Mesabi, Vermillion, Cuyuna 山 及び Two Harbors, Duluth, Superior まで	95仙+5仙	(ドック料)
2 Menominee 及び Escanaba まで	80 +5	//
3 Gogebic 及び Ashland まで	80 +5	//
4 Marquette 及び Marquette 港まで	70 +5	//
5 Negaunee 及び //	60 +5	//

(From Age Dec 23, 1920.)

之を Valley 地方へ輸送せんかためには更に一、五弗餘を要すへし。

(註) 戦前エリドック其他レーキ諸港より各地方迄鐵道賃次の如し。ドック料金を含まず。

一 シカゴへ七仙、二 エリー湖地方五仙、三 ヴァレー地方六十一仙、四 ビッツパーク一弗九仙、五 Wheeling へ六十六仙
--

(ロ) 骸 炭 (米國鐵鋼協會調査)

45 コンネルスビル骸炭市價次の如し。

	一月	六月	九月
一九一三年	三、八八 ^弗	二、二一 ^弗	二、二九 ^弗
一九一四年	一、八五	一、七五	一、六五
一九一五年	一、五〇	一、五六	一、六一
一九一六年	二、九四	二、四九	二、九四
一九一七年	九、五〇	一一、二五	一一、一二
一九一八年	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
一九一九年	五、六五	四、〇〇	四、五六
二〇〇年	六、〇〇	一四、〇〇—一七、〇〇	一一、〇〇
二〇〇年一月二三日	九、〇〇		
二〇〇年一月四日	七、〇〇		
二〇〇年二月二日	六、五〇		

(註) 高爐用骸炭、即時渡、爐前渡正味噸に付き。

骸炭價格の決定方法としては石炭市價に基くを理論上合理的と考へらるれ共毎週標準炭價を決定すること困難なるを以て多くは銑鐵市價を標準とせり大正十年上期も亦此の方法を採用し、ザアレー地方鹽基性銑工場渡市價の五分一を以てコンネルスビル骸炭市價となすとせり。當分は四弗以下に下ると稀なるへし。

次に參考の爲め同國四四五炭坑會社か聯合産業委員會に提出したる報告を掲げて石炭採掘費趨勢を示さん。(The Coal Age, Nov. 11, 1920)

一般競争地方	一九一八年改訂山元原價	一九二〇年一月四日	一九二〇年六月
一 中部競争地方	一八三 ^弗	二〇九 ^弗	二三六 ^弗
二 東部地方	一九〇	二、三〇	二、六九
三 西部地方	一九八	二、二六	二、五二
四 南部アパラチアン山	二、二六	二、七九	三、〇三

五南西部地方 二、五九
 六ロツキー山 二、〇九
 全 國 平 均 二、〇〇

三、〇四
 二、四四
 二、三六
 三、四三
 二、七五
 二、六六

次に報告の内譯を示せは次表の如し

(一九二〇年六月五五五の當業者より報告せる生産費並に販賣價格と一九一八年一般競争地方に於ける二、四八二の當業者の改訂生産費並に販賣價格對比表)

一般競争地方 當業者數	販賣價格	賃銀	材料	一般經費	山元原價	一噸當	
						マージン	マージン
中部競争地方 (a)	一五八三、二一一	弗	八三〇、二五〇	弗	二、九二九	弗	三、七〇八
東 部 地 方 (b)	一四四三、八一	弗	九五〇、三三〇	弗	四、四二二	弗	二、七二一
西 部 地 方 (c)	三七三、三〇一	弗	九五〇、二八〇	弗	三、二二二	弗	五、五〇七
南部アパラチアン山 (d)	六四三、七一	弗	二、二八〇	弗	四、五〇三	弗	一、六〇五
南 西 地 方 (e)	八九三、八〇二	弗	七八〇、三三〇	弗	四、五三三	弗	五、六〇二
ロツキー山 (f)	六三三、二五二	弗	二、〇五〇	弗	三、七二二	弗	七、四〇五
合 衆 國	五五五三、四四二	弗	二、〇二〇	弗	三、七二二	弗	七、四〇七

當業者數	販賣價格	賃銀	材料	一般經費	山元原價	一噸當
者數	弗	弗	弗	弗	弗	弗
七六五	二、四五一	弗	三、九〇〇	弗	二、五〇〇	弗
九六六	二、八一	弗	四、五〇〇	弗	二、八〇〇	弗
一三八	二、七五一	弗	一、七五〇	弗	二、六〇〇	弗
二八八	二、八一	弗	一、六一〇	弗	二、九〇〇	弗
一七一	三、一三二	弗	一、一五〇	弗	二、五〇〇	弗
一五四	二、七三一	弗	一、六三〇	弗	二、六〇〇	弗
三四八	二、六五一	弗	一、四九〇	弗	二、六〇〇	弗

マージンは利益金に非ず、販賣價格と山元原價との差異なり。

- (a) イリノイズ、インデアナ、オハヨーの全部及ペンシルバニアの南西部
- (b) マリーランド、西ヴァージニア、ヴァージニアの全部及ペンシルバニアの中部
- (c) ミシガン、ローラの全部及ケンタツキーの一區
- (d) アラバマ、テネシーの全部及ケンタツキーの二、三區
- (e) ミヅリー、カンサス、アルカンサス、オクラホマ及テキサスの全部
- (f) コロラド、新メキシコ、北ダコタ、モンタナ、ワイオミング、ウタ、ワシントン諸州の全部を含む。

(註) 賃銀上昇の影響を受けて生産費の尙ほ上昇せるを見る、然れ共之を英國に比すれば尙ほ其三分一に過ぎず。

石炭原價を假に二弗半とし製造歩留約六五%製造費二弗として推算すれば骸炭一噸生産費約五、

五弗を下らざるへし。

尙は附圖四表及無煙炭生産費を参考のため掲記すへし。

(附) 無煙炭原價及販賣價格表

無煙炭(獨立)業者組合事務長 W. J. Thompson 氏の發表にかゝる戦時中戦後の無煙炭生産費及販賣價格次の如し。

年 度	生 産 量 千英噸	勞 銀	材 料 費	總 經 費	炭坑原價	平均販賣價格	× 差 引 殘
(一) 一九二七、一月—四月	二、九七七	一、八五	〇、四七	〇、八四	三、一六	三、八〇	〇、六四
(二) 一九二七、五月—八月	三、三六六	二、〇〇	〇、五四	〇、八〇	三、三四	四、二四	〇、九〇
(三) 一九二七、九月—十二月	二、五一三	二、〇四	〇、六一	〇、八〇	三、四五	四、三八	〇、九三
(四) 一九二七、一月—八月、一〇	八、五八八	二、五八	〇、七一	〇、九一	四、二〇	四、七一	〇、五一
(五) 一九二八、一月—八月、一二	一、三二二	三、四四	〇、九一	一、〇六	五、四一	五、七〇	〇、二九
(六) 一九二九、一月—八月、七	六、〇〇九	三、五三	〇、七二	一、〇六	五、三二	五、一一	〇、二一
(七) 一九二九、八月—九月、一二	四、六四三	三、五一	〇、七三	一、〇九	五、三三	五、八一	〇、四八
(八) 一九二〇、一月—二月、三	二、六一一	三、七九	〇、七七	一、一五	五、七一	六、〇一	〇、三〇
(九) 一九二〇、四月—五月、一〇	六、〇五九	四、三八	〇、九一	一、二七	六、五六	七、〇四	〇、四八
第一期に對する増率		一三六、九%	九四%	五一、一%	一〇七、七%	八五、六%	二四、八%

(Coal Age, Feb. 3, 1921)

(註) (一) (一) (六) Table 16, p. 53, Cost Reports of the Federal Trade Commission Coal No. 2, Anthracite.

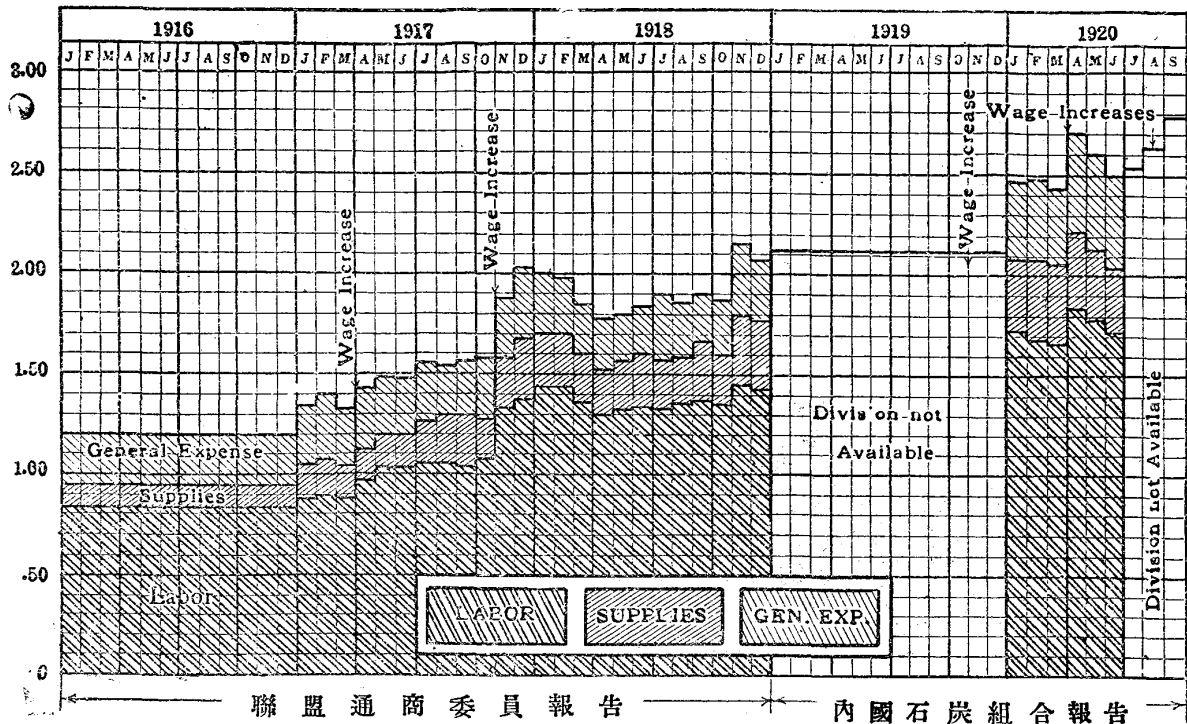
(六) (九) Compiled by Anthracite Coal Operators Association.

(二) × 差引殘は利潤にあらず、尙ほ販賣費約二〇仙、利子、聯邦税及修繕維持費等を控除するを要す。

(ハ) 賃 銀

戦時中ユー、エス會社にて八回の賃銀値上げありたり之れは又他會社にも波及したるを以て左に表示して参考に供せん。

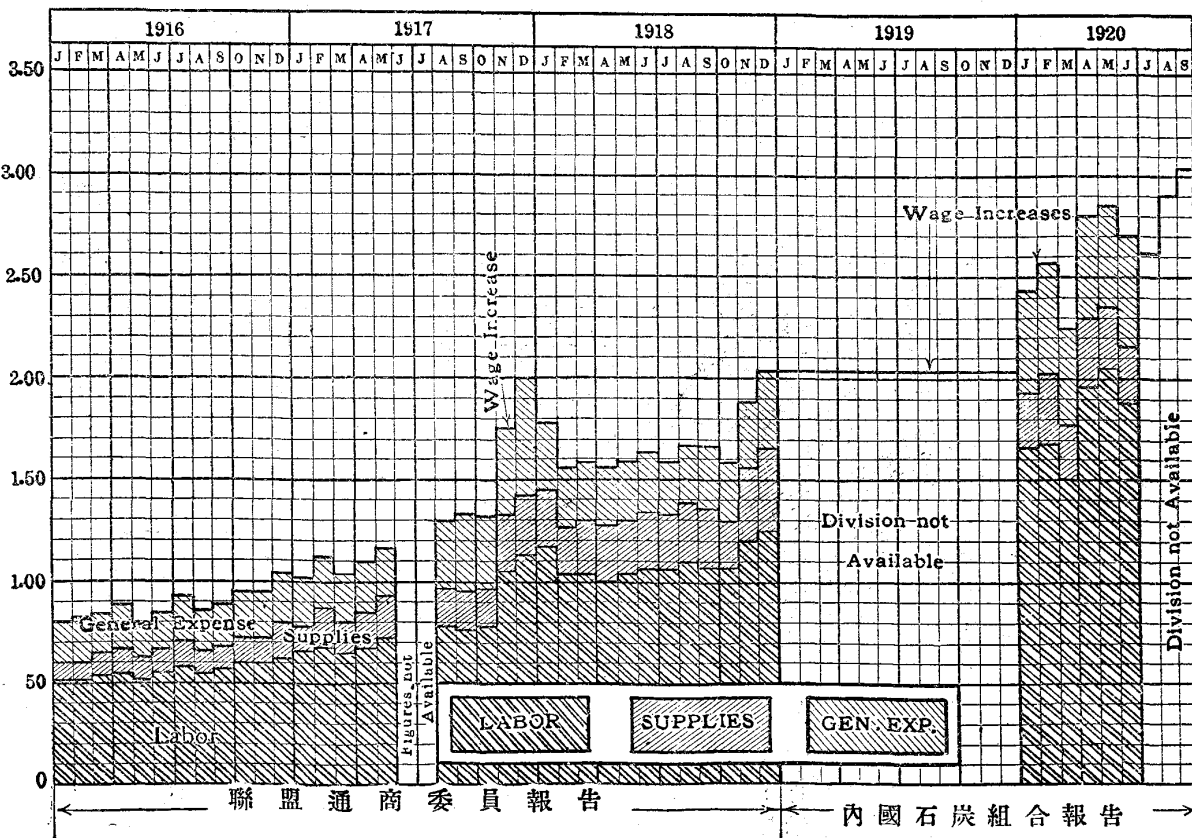
正味一噸に付生産費(弗)

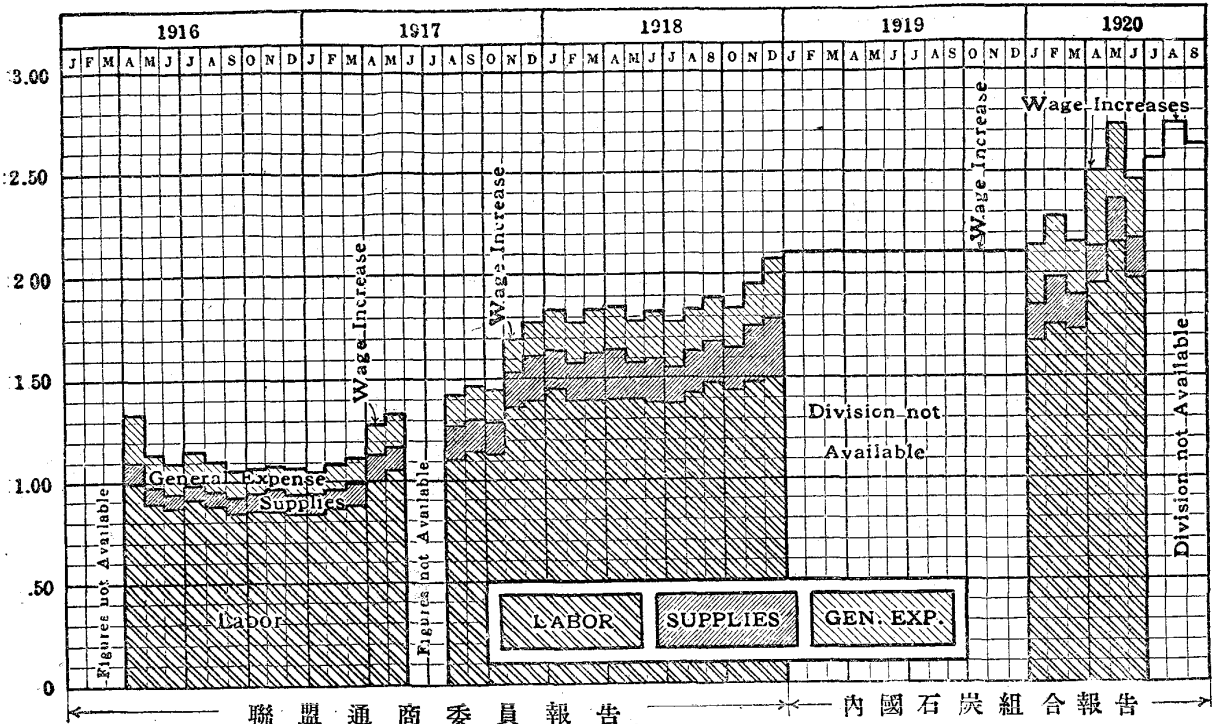


まに告盟を〇六よて一噸〇リは一はの内費にアジ〇
すはの通示噸〇リは二、〇年一八一報國情於ホニ〇
〇販生商せの〇年一〇一、々六年九告石況けンア
賣産委り生、々三年九〇七會に一に炭 るタ州西
を費員、産〇二會に一〇、社於六依組 生スポウ
含中報聯額〇、社於九〇〇よて一れ合 産野キア

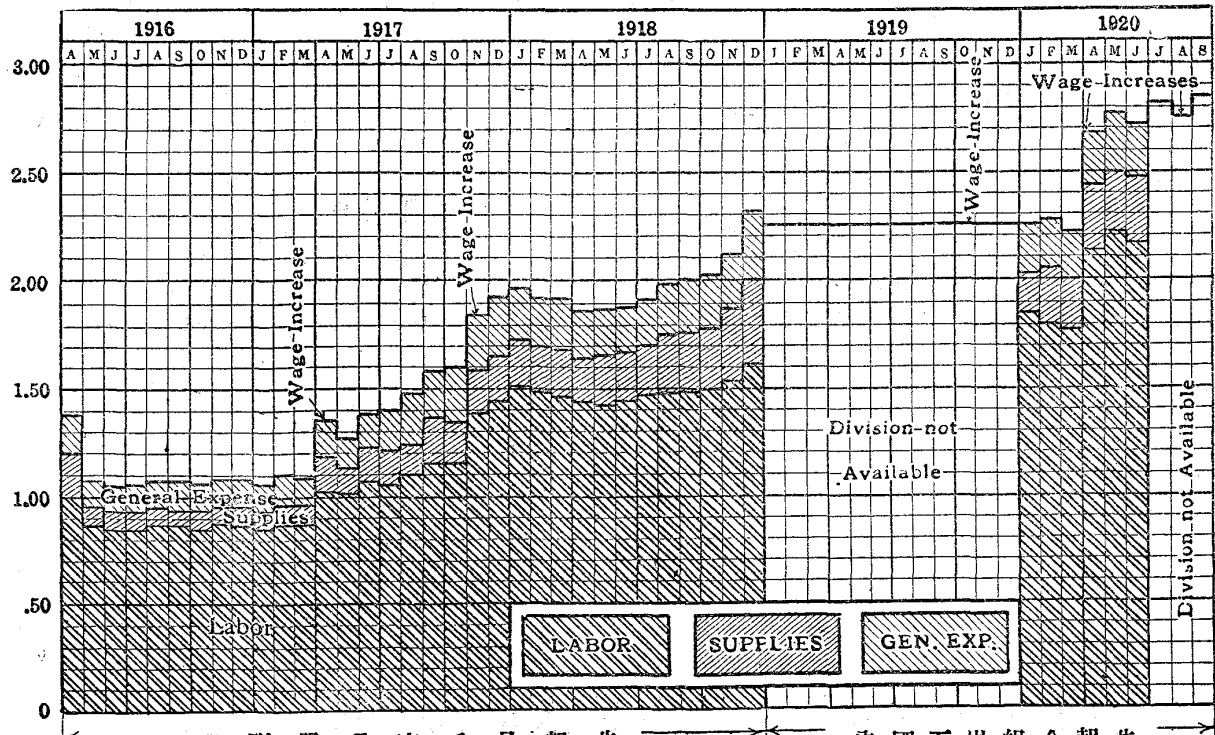
を中報聯額〇八社に一〇三社於六依よ内産部ル〇
含に告盟を〇、よ於九〇、よて一れり國費にバニ〇
まはの通示噸〇リは二、〇年一八一報國情於ホニ〇
〇販生商せの〇年一〇一、々六年九告石況けンア
賣産委り生、々三年九〇七會に一に炭 るタ州西
を費員、産〇二會に一〇、社於六依組 生スポウ
含中報聯額〇、社於九〇〇よて一れ合 産野キア

正味一噸に付生産費(弗)





聯盟通商委員報告
 中には販賣費
 報告の生産費
 聯盟通商委員
 費額を示せり
 〇〇噸の生産
 二、〇〇〇、〇
 社より年々一
 於ては一三會
 六―二〇年に
 依れは一九一
 依れは一九一
 内國石炭組合
 よりの報告に
 情況
 内國石炭組合
 於ける生産費
 イス州六區に
 (三) イリノ
 内國石炭組合
 報告



聯盟通商委員報告
 中には販賣費
 報告の生産費
 聯盟通商
 費額を示せ
 〇〇噸の生
 々八、〇〇〇、
 年に於ては年
 九一九―二〇
 〇〇噸、一
 四、〇〇〇、一
 會社より年々
 於ては、三三
 六―一八年に
 依れは一九一
 内國石炭組合
 よりの報告に
 情況
 内國石炭組合
 於ける生産費
 アナ地方に於
 (四) インデ
 内國石炭組合
 報告

値上げ日付

増加率

一九一五年一月を基準としたる後貸銀増加集積率

一、一九一六年	二月	一日	一〇、〇%	一〇、〇
二、同	五月	一日	一三、六	二五、〇
三、同	十二月	一五日	一〇、〇	三七、五
四、一九一七年	五月	一日	九、〇	五〇、〇
五、同	一〇月	一日	一〇、〇	六五、〇
六、一九一八年	四月	一六日	一五、〇	九〇、〇
七、同	八月	一日	一〇、五	一一〇、〇
八、同	一〇月	一日	一〇、〇	一三一、〇
九、一九二〇年	二月	一日	一〇、〇	一五四、一

一九一八年一〇月一日の増加率は一〇時間労働に對する分なり、此時八時間労働を原則とし同時に殘業に割増金を支拂ふに到れるを以て多數の労働者は依然として一〇時間労働に服したりと云ふ。

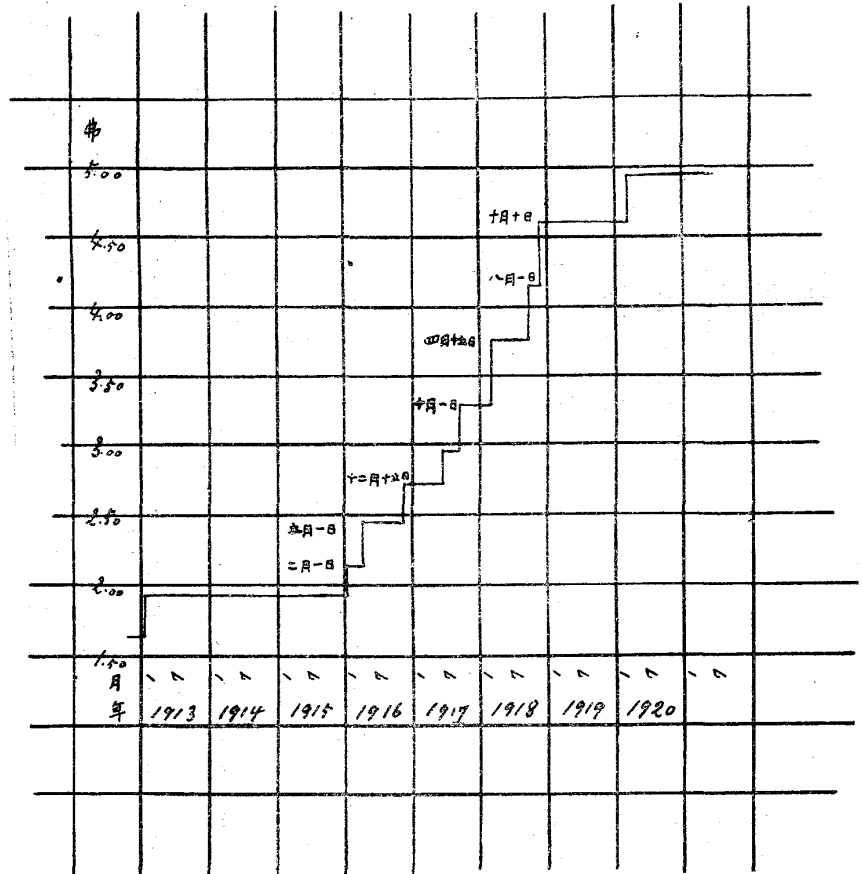
尚ほ本増率は普通労働者に對する分のみなれ共高給者を除き他の労働者にも同様の増加を許せり。

全使用人の年收増加趨勢次の如し。

年	使用人平均數	平均一人當年收	指數
一九一四年	一七九、三五三	九〇五	一〇〇
一九一五年	一九一、一二六	九二五	一〇二
一九一六年	二五二、六八八	一、〇四二	一一五
一九一七年	二六八、〇五八	一、二九六	一四三
一九一八年	二六八、七一〇	一、六八五	一八六
一九一九年	二五二、一〇六	一、九〇二	二一〇
一九二〇年	二六七、三四五	二、一七五	二四〇

又レバブリック鐵鋼會社の調査表次の如し。

中西部製鋼會社に於て支給せる通常勞銀
(一日十時間に付) (共和鐵鋼會社調査)



即ち北部は戰前一〇時間労働にて一・六五弗なりしもの一九一九年には四・六〇弗に上り今や五弗に達せり、南部は黑人労働者を使用し一日一二時間に於て尙ほ三弗なり。

(三)以上の材料により最近同國生産費を推算すること次の如し。

大正十年初銑鐵噸當生産費推算

使用量

單價

×ピッツバーグ地方

使用量

單價

アラバマ地方

一、鐵石	噸	九	弗	〇〇	一三、三〇	噸	四	弗	〇〇	八、五八
二、コークス	噸	一、一	六、〇〇	六、六〇	一、四〇	噸	七、〇〇	九、八〇		
三、石灰石	噸	〇、五	二、五〇	一、三五	〇、七〇	噸	二、五〇	一、七五		
計				二一、一五				二〇、一三		
四、間接費				六、〇〇				六、〇〇		
合計				二七、一五				二六、一三		

(註) 鐵鑛及石炭自給の會社ならば二四弗前後ならん。

原料使用量につきましては Iron Age, Dec. 24, 1919. 米國鐵鋼協會調査報告。

現在銑一噸生産費約二五弗なるへし、之れ同國に於ては空前の昇騰にして賃銀の低下を見は遠からず改善せらるべきものなり。

(附) 戦前ベセマー鋼塊一噸生産費 (Report of the Commissioner of Corporations, 1910)

一、銑鐵及屑鐵	噸	九三					
二、滿庵	噸	〇、三一					(註) 全國平均なり
三、石灰石	噸	〇、一〇					大會社は平均 一五、二六
四、賃金	噸	〇、五一					小會社は平均 一九、一二 となる
五、燃料	噸	〇、二〇					
六、蒸氣	噸	〇、一一					
七、鑄型	噸	〇、一三					
八、修繕其他	噸	〇、三一					
計		一四、六一					
九、事務費及償却		〇、九六					
總計		一五、五七					

(四) 大戰後の製鐵會社の成績を示さんかためユ、エス會社の報告を拔載すへし。

收入勘定對比表

*

一、總收入(社債利子控除前)

(單位千弗)

一、第一期 一九一七年 七八、九九四

二、第二期 一九一八年 五九、一三八

三、第三期 一九一九年 六四、八二二

四、第四期 一九二〇年 七三、〇〇七

計 三〇四、二五一

二、所屬會社社債利子控除額

三、償却金控除額

一、所屬會社々償債却基金及減價修繕基金 四三、二九六

二、ユ一、エス會社々償債却基金 七、二五七

四、差引純收入額 二四四、七三九

五、控除

一、ユ一、エス會社々債利子 二一、二五六

二、償還債券に支拂へるプレミアム 二〇、八九一

所屬會社分

ユ一、エス會社分 七〇

六、再差引 一一八

七、附加—雜%殘 七六八

計 一三六、九〇三

八、配當金 七六、六〇〇

一、優先株 七% 二五、二二〇

二、普通株 七% 九一、四九四

殘

九、戰時設備特別償却金 一〇七、五〇五

一〇、純收入剩餘金 五五、〇〇〇

一九二〇年通常	五%
一九一九年通常	五%
一九一八年同	五%
一九一七年通常	五%
特別	一三%
九%	

二五、二二〇	二五、二二〇	二五、二二〇	二五、二二〇
九一、四九四	七二、一六二	二五、四一五	二五、四一五
一〇七、五〇五	四一、一五〇	二六、一六〇	五九、〇五九
五五、〇〇〇	一二、二一五	—	三〇、〇〇〇
五二、五〇五	二八、九三五	二六、一六〇	二九、〇五九

一九一八年

一九一九年

一九二〇年

五九、一三八

三五、七二九

四四、二一二

六四、八二二

三六、五二〇

四五、二六九

四三、〇〇七

四二、三二八

五〇、一四五

六一、六五七

三七、七一一

四五、四六九

三〇四、二五一

一五二、二九〇

一八五、〇九五

八、八六九

八、七〇二

八、四〇八

四三、二九六

三七、六〇九

三八、二四六

七、二五七

七、九三七

八、四三九

二四四、七三九

九八、〇四三

一三〇、〇〇三

二一、二五六

二〇、五〇九

二〇、一〇六

一一八

一一九

一一八

七六八

八一四

七一七

一三六、九〇三

七六、六〇〇

一〇九、〇六二

一、六〇一

一九四

六三三

二三四、二二〇

七六、七九五

一〇九、六九五

(註) 聯邦收入及過剩利得稅見積額差引後利益殘

第四章 結 論

歐米鐵價の趨勢及生産費の現状は略上述の如し。而して今や鐵價は既に下向し久しく奔騰を續けたる歐米市況も舊臘以來漸く崩落し來れり。生産者は既に原價改善の努力を試み、賃銀低減を行へる工場あり。然れ共戰後の産業界を脅威せる燃料勞働者の徹底的革命主張と之に伴ふ生産の減退は尙ほ客易に鋒鏑を收めず、之を獨、英、米の現状に見るに前途愈々暗澹たるものあらんとす。抑も製鐵業にとりて燃料の重要なるは之を囑々するの要なかるへし、蓋し銑鐵一噸を生産せんかためには鐵鑛一噸及骸炭一噸餘を直接使用す。骸炭一噸は石炭約二噸に當り、之にボイラー其他動力に使用する量を加算せんか出銑一噸に付少くとも石炭三噸を消費し、若し之を製鋼せんかためには更に二噸前後を使用し、かくて鋼材一噸製造のためには石炭五噸を必要とす。然も骸炭製造に供し得へき炭質は灰分少く粘結力強からざるへからず。

されは石炭供給潤澤となり、炭價從て下落するに非ずんは鐵鋼生産費も亦大に改善すへからず。炭界事情の推移を察するの要大なりと云ふへし、戰前英國ダルハム炭は既に其低廉米國炭に及はさりしも大戰を経て兩國の差異愈々大なるに至れり、即ち米國に於て一噸僅に五圓前後なる採掘費か英國に於ては一七圓を超え、其本邦に比し尙ほ五圓前後の高値なるは特に銘記すへし、況んや鐵鑛は米國の自給せるに英國は大半西班牙、瑞典等の供給に俟たざるへからず。其内地埋藏量亦次第に枯涸せんとす、翻て戰前雄飛したる獨逸を見るにローレン地方を失ひて其地歩を失し、燃料の供給又意の如くならず、世界鐵鋼界の趨勢は今や米國を中心として動かんとするの機運成れるを見るへし。目下米國製鐵業の世界的飛躍を妨くるは實に其爲替相場の昂騰あるのみ。

然らば米鐵相場の前途如何、同國市價はユー、エス會社の方針によりて左右せらるゝこと多し、然ら

はエー、エス會社の最近の方針如何。由來其價格方針は健實を旨とし來れるか舊臘同社長ゲーリー氏は説をなして曰く

「一九一九年三月二十一日の協定價格を支持せんこと今も尙ほ余の欲する處なり、爾來各種鐵鋼品生産原價は數度の賃銀増給及運賃上騰の爲め大に上昇したるか故に平時ならば當然値上をなすへき理由なきに非され共市價安定の緊要なる所以を考慮し特に著しき變動の生せざる限り余は所屬各會社の尙ほこの標準を支持せんことを勸告す」

(註) (Iron Age, Nov. 21, 1920)

氏は最近又同様の言を繰返へせり。(Iron Age, Feb. 1921)

試みに紐育物價指數と銑鐵指數とを對比すれば次の如し。

紐育物價指數	ペセマー銑市價(弗) (ピッツバーグ)	銑指數
一、一九二四年 七月	一〇〇	一〇〇
二、一九一四年 七月—一五年 六月	一〇九	九八
三、一九一五年 七月—一六年 六月	一二四	一二八
四、一九一六年 九月—一七年 六月	一五四	一二一
五、一九一七年 七月—一八年 六月	二〇三	二七四
六、一九一八年 七月—一八年 二月	—	二四四
七、一九一九年 一月—一九年 六月	二〇四	—
八、一九二〇年 一月	二三五	二七三
九、同 六月	二二九	二九六
一〇、同 一〇月	一九五	三三六
一一、同 十一月	一八一	二九三
一二、一九二一年 三月	一三七	一九三

(註) レッドフィールド協定價格は戦前の一七二%に當る。(二五弗七五仙)

一九一九年三月レッドフィールド協定價格

同 九月最高價格發表

一七年四月參戰

之によりて見れば物價は既に戦前の一倍半以下に下り鐵價も亦之に鞘寄せ來れり、若し需要尙ほ

激減し賃銀亦下らば鐵價も尙ほ下落すへしと雖も賃銀の下落は大に期待すへからず。故に生産費の現状より察すれば上掲協定價格を下ること遠からざるへし。

附(第一) 米國銑鐵本邦着原價推算

ピッツバーク工場鹽基性銑原價を假に二二弗とせば

ピッツバーク—紐育運賃 八、五〇

海上運賃を高値の半額として 一〇、〇〇

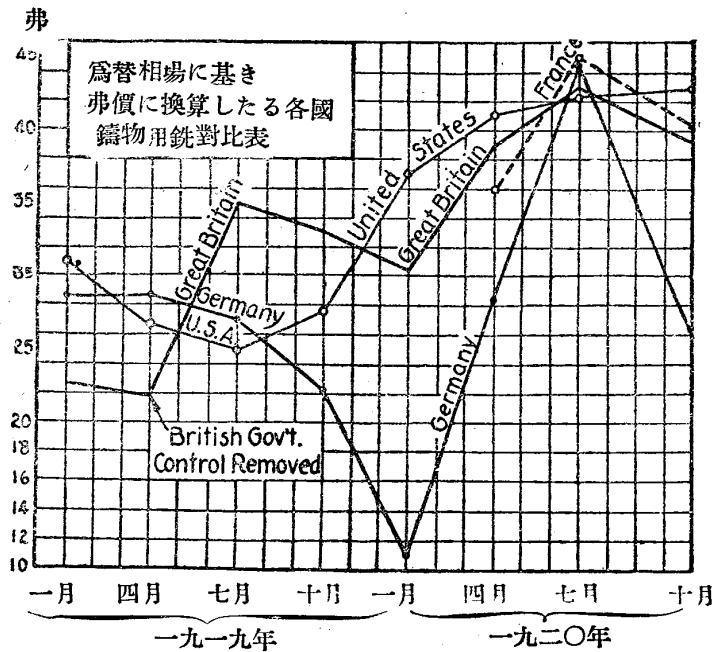
關稅、保險料、積卸費其他雜費 六、五〇

計 四七、〇〇

本邦着原價九〇圓を下らざるへし、固より勁敵なりと雖も適當の方策により投賣を妨止することを得ば未だ我製鐵業の根幹を覆すに足らざるなり。

附(第二) 歐米鐵價の出合ひにつきて

米國弗價を標準とし爲替相場の變動に從て歐米鐵價の出合ひを示すこと上表の如し。以て爲替相場の變調を察すへし。



附(第三) 内外炭鐵市價及物價指數對比表

年	月	東京卸賣物價指數	内地産一號銑鐵	九州塊炭上一萬斤	和製コーロス一噸	紐育物價	ピッツバークベセマー銑	コンネルスビルコークス
1913	一月	100.0	—	—	—	—	—	—
1913	四月	100.1	—	—	—	—	—	—
1919	一月	50.0	—	—	—	—	—	—
1919	四月	48.5	—	—	—	—	—	—
1919	七月	16.0	—	—	—	—	—	—
1919	十月	16.0	—	—	—	—	—	—
1920	一月	16.0	—	—	—	—	—	—
1920	四月	16.0	—	—	—	—	—	—
1920	七月	16.0	—	—	—	—	—	—
1920	十月	16.0	—	—	—	—	—	—

七月	一九一四年一月	九七、九	—	五二、〇	一六、五	八、九五二	一六、七〇	二、四五
一〇月	一九一四年一月	一〇〇、一	—	五五、〇	一八、〇	九、一五六	一六、六〇	二、九八
四月	一九一四年一月	九五、三	四六	五五、〇	一八、〇	八、八八六	一四、九六	一、八五
七月	一九一四年一月	九三、七	四六	五三、〇	一七、五	八、七五六	一四、九〇	一、八六
七月	一九一五年一月	九一、六	四六	五五、〇	一六、五	八、六五七	一四、九〇	一、七五
一〇月	一九一五年一月	九一、五	五五	五三、〇	一六、五	九、二四二	一四、八四	一、六〇
四月	一九一五年一月	九三、五	四四	五二、〇	一六、五	九、一四三	一四、五九	一、五〇
七月	一九一五年一月	一〇二、二	四六	五二、〇	一六、五	九、七七五	一四、五五	一、五〇
七月	一九一五年一月	一〇三、〇	四六	五〇、〇	一六、五	九、八六〇	一四、九五	一、六四
一〇月	一九一六年一月	一〇九、五	四六	五〇、五	一六、五	九、九七八	一六、九五	二、〇三
四月	一九一六年一月	一三二、〇	六八	五二、〇	一七、〇	一〇、九一六	二一、五八	二、九四
七月	一九一六年一月	一三八、四	九三	五六、六七	一七、〇	一一、七六〇	二一、九五	二、四一
一〇月	一九一七年一月	一二三、四	一〇三	五七、〇	一七、〇	一一、五二九	二一、九五	二、七五
七月	一九一七年一月	一三六、〇	九五	六七、二二	一七、〇	一二、〇四〇	二四、〇八	四、八八
四月	一九一七年一月	一四一、六	九五	九五、〇	二〇、〇	一三、七二八	三五、九五	九、五〇
七月	一九一七年一月	一五五、〇	一七〇	一一二、〇	二〇、〇	一四、五七七	四二、二〇	七、三八
一〇月	一九一八年一月	一八〇、三	二〇〇	一三〇、〇	三八、〇	一六、〇六八	五七、四五	一二、七五
七月	一九一八年一月	一八二、一	三二七	一六五、〇	三八、〇	一六、九一四	三七、二五	六、〇〇
四月	一九一八年一月	一九六、七	三三〇	一七一、〇	四六、五	一七、九六四	三七、二五	六、〇〇
七月	一九一八年一月	二〇六、一	三五九	一七二、五	四六、五	一八、四四三	三六、一五	六、〇〇
一〇月	一九一九年一月	二一七、六	四四〇	一九五、〇	四八、〇	一九、一六二	三六、六〇	六、〇〇
七月	一九一九年一月	二二三、八	四八〇	二三四、〇	四八、〇	一九、〇一七	三六、六〇	六、〇〇
四月	一九一九年一月	二一八、七	二五〇	一九五、〇	五四、〇	一八、五三五	三三、六〇	五、六五
七月	一九一九年一月	二〇五、四	一四八	一九五、〇	五四、〇	一七、二八〇	二九、三五	三、六五
一〇月	一九一九年一月	二四三、四	一一五	二〇一、〇	五四、〇	一八、八九六	二九、三五	四、〇七
七月	一九一九年一月	二六三、八	一四五	二〇〇、〇	四九、〇	一九、五二二	二九、三五	四、五二

年	月	鋼片 (基準)	軌條 (割合)	アングル (割合)	船板 (割合)	ボイラー板 (割合)		
一九二〇年	一月	三〇一、三	一三〇	二二〇	五二、〇	二〇、三六四	四〇、〇〇	六、〇〇
	四月	二八八、八	一四五	二三〇	五一、〇	二〇、七一二	四三、六〇	九、六〇
	七月	二四一、七	一二〇	二〇〇	五一、〇	一九、三五三	四七、一五	一七、二〇
	一〇月	二二二、四	一一〇	二〇〇	五一、〇	一六、九〇九	四九、一六	一五、一二
	十二月	二〇六、一	九五	二〇〇	五一、〇	一三、六二六	三六、九六	六、二〇

(東洋經濟雜誌) (村上商店調) (東洋經濟雜誌) (若松渡) (同上) (東京工場) (アツラド、ス) (トリート誌) (工場渡長噸) (爐前渡即時) (渡正味噸)

第二章(補) 英國鋼材價格表

原料品との價格の差異は戦前には略ぼ一定したり。然るに戦時中及戦後に於ては外國供給か一時杜絶したるを以て半製品の價格は精製品價格を
 超ゆるの變調を呈したることあり、殊に一九二〇年に著しかりしかは既に一九一五年及政府管理の前にも現はれたる事情なり、而して今やこ
 の關係は再び戦前の状態に復歸したり。次表はこの關係を明瞭ならしむるを以て茲に採録して參考とすへし。

一九二〇年度毎月及一九二一年一月諸鋼材價格比較表

年	月	鋼片 (基準)	軌條 (割合)	アングル (割合)	船板 (割合)	ボイラー板 (割合)
一九二〇年	一月	三九〇	三七五	三九〇	四七〇	五六〇
	二月	四四〇	三九五	四一〇	〇、九三	〇、九七
	三月	四九〇	四二〇	四三〇	〇、八七	〇、九六
	四月	四九〇	四六〇	四五〇	〇、九二	〇、九六
	五月	五三〇	四六〇	四八〇	〇、九〇	〇、八八
	六月	五二〇	四六〇	〇、八七	〇、九二	〇、九〇
	七月	四六〇	五〇〇	〇、八八	〇、九二	〇、九〇
	八月	四六〇	五〇〇	〇、八八	〇、九二	〇、九〇
	九月	四三〇	五〇〇	〇、八八	〇、九二	〇、九〇
	十月	三六〇	五〇〇	〇、八八	〇、九二	〇、九〇
	十一月	三五〇	五〇〇	〇、八八	〇、九二	〇、九〇
	十二月	三二〇	五〇〇	〇、八八	〇、九二	〇、九〇
一九二一年	一月	三〇〇	四二〇	四二〇	四五〇	五九〇

(註) I. & C. Tr. Rev. Jan. 14, 1921

割合欄は鋼片價格を基準としたる他鋼材價格の割合なり。

一九二〇年上期中粗財に比し反て精製品の價格の低廉なりしを見るへし。

(完)